事なれば、有あふ青草をかりつかねて、みの笠の替りに表たるのみにて、常に用ふる爲に製したるにはあらざるなり、其外諸書に笠とのみ見えたるはかならず、竹笠なるべくおもはる、

〔和漢三才圖會二十六服玩具〕笠（たけのとかさ音立）　和名加佐

本綱云、笠賤者禦雨之具、以竹爲胎、以箬葉夾之者、天形如笠、而冒地之表、故笠曰天公、

按、笠、俗云、笋笠（タケノコカサ）也、中華以箬葉作之、箬卽岡蘆（ヲカアシ）也、倭多用籜、籜卽笋皮也、以苦竹籜作者出於播州明石、賤民禦雨、以淡竹籜作者稍美、出於江州水口及越州福居、

〔我衣〕延寶ノ比ヨリ、地ニテ作ル、眞竹皮ノ笠、小ブリナリ、ヲサヘ竹モアラシ、日笠雨笠兩用ニス、後大笠モコシラヘタリ、ワタリ二尺四五寸バカリ、ハナハダヲモシ、雨笠、〇略中

上方ヨリハチク竹ノ杉形笠下ル、細竹ミゴヲ押ヘトシ、上ノトマリ黑ビロウド、アサ糸ヌヒ、享保ヨリ地ニテ作リ出ス、上作ナリ、頭ノトメ紫ガハナリ、

上方下リ、始代二匁、但壹匁六十四文　正德比代一匁、元文比四十五文、寛保比二十四文三十二文也、

竹笠出シヨロ、地作百五十錢、三百文、好ニヨリテ百疋迄、皆キヌ糸ヌヒ、

元文比ヨリ、内ノ竹ヲクロクヌル、細工シゴクヨシ、延享ヨリ内ノ竹キクニスル、尤上作ナリ、

〔守貞漫稿二十九笠〕安永三年ノ刊本風俗通ニ曰、笠ハ菅ノ蒲鉾形、水口細工ノ藤蔓笠、駿河細工ノ竹笠、是ニ三色アリ、上ハ萌黄ノ染竹、中ハ白晒竹、下ハ紫竹、右五色ノ内ニテ好ミニ隨テ用ユベシ、笠當、笠紐、白晒又黑絽モヨシ、然シ黑キ絽ニテハ、ヨゴレヲ厭フ心見エテアシ、是ヲ前下リニ冠ル、後ロノ紐打チガヒ云々、〇略中

竹笠亘二尺許

竹笠ハ、天保初ニ駿州ヨリ始テ造リ出シ、江戸ニテ用ヒ之、今ハ藤竹トモニ江戸ニテ造之、竹笠出テ次ニ藤笠ヲ造リ行ル、〇略中京坂モ不用之、戸主ト雖ドモ、ハチク笠上製等ヲ用フ、江戸モ天保前ハ